

「床材汚染」への対策

こんな事例を見たことは？
根本的な解決策がわからず、繰り返し起こってない？

生活スタイルの洋式化にともない室内施工でのプラスチック床材使用は、いまや当たり前になってきている。そして、次のような事象も切っても切れない事故となってしまっている。

『施工後のビニル系床材汚染』

張り終えて引き渡し間近になったところに突如浮かび出てくる事例のごとくだ。はっきりとした原因もわからず、床材を張り替えていただいた経験もあるだろう。

床材汚染原因の一つは、床材の下に書かれたマーカーや朱墨とご

れる。一般的にマーカーやペイントマーカー・朱墨には、色の素となる色材が含まれているが、種類によって床材汚染の原因となる。その色材が床材の可塑性に溶けだしてマーカーの跡を浮かび上げさせて汚染を発生する。従って汚染箇所を剥がして張り替えただけでは再び汚染が発生する可能性が残っている（左写真、実際の発生事例）。

日本インテリア協会（NIF）プラスチック床材部会は、数ある市場の筆記具を調べて樹サクラクレパス（大

阪市）から発売されている『ビグマックス』や『固形ペンキ』、『ビグマックス』の3銘柄が汚染を引き起さないことを確認した、と報告した。一般的な油性マーカーと『ビグマックス』の汚染試験比較からまったく汚染が発生しないことが確認されている。

サクラクレパスによると、可塑性に溶けださない色材を用いたマーカーを選ぶことが重要と説明する。また、色材に染料を使っているマーカーは汚染を発生させるものが多く、現場でよく使われる『蛍光色』は特に汚染原因になる確率が高くなるのだという。

NIFは加藤各社の検証を経て、樹サクラクレパスの『ビグマックス』、『固形ペンキ』、『ビグマックス』、『スプレ』の3銘柄を床材汚染対策推奨品とした。組合員各位においても、もしこのような事案に直面したときには、床材をはがしてマーカーや朱墨が引かれていないか確認してほしい。もしあれば、再び床材を張る前にそのマーカーや朱墨を完全除去する必要があるのである。

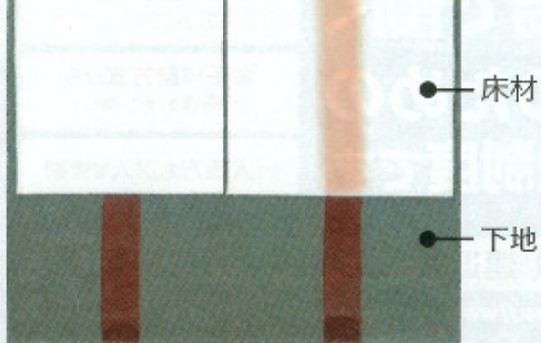
このような汚染を極力避けるために、サクラクレパスは「施工の際にはNIFが推奨す

建築用マーカーにより床材が変色した！



出典：インテリアフロア工業会・技術委員会、ビニル系床材不具合事例ハンドブック、井上憲隆、2021、P.40

試験条件：50°C×4週間
ビグマックス® 油性マーカー



ビニル系床材におけるビグマックス®と油性マーカーの汚染比較

る『ビグマックス』、『固形ペンキ』、『ビグマックス』、『スプレ』3銘柄の採用を検討してもらいたい」としている。

詳しくは樹サクラクレパス（電話・06-6910-8801）へ、またはメール・info@corp@craspas.co.jp）もしくは（一社）日本インテリア協会プラスチック床材部会・担当石原氏（電話・03-34333-452）へ、またはメール・ishihara@nif.or.jp）まで。

※ビグマックスは株式会社樹サクラクレパスの登録商標

NIF 推奨 ビニル系床材汚染対策マーカー

<p>固形ペンキ 油性・顔料系マーカー 全6色</p> <p>直径 13mm</p> <p>定価 ¥440 (中字)</p>	<p>ビグマックス 水性・顔料系マーカー 全12色</p> <p>太字 5.5mm 中字 1.5mm</p> <p>定価 ¥165 (ツイン)</p>	<p>工業用ビグマックススプレー 油性・顔料系スプレー 全5色</p> <p>標準塗り面積 1.0㎡</p> <p>定価 ¥1,320 (中字)</p> <p>株式会社 サクラクレパス</p>
---	--	---